令和元年度 県営太陽光発電所 実証試験の考察について

(平成31年4月~令和2年3月)

1 発電所の役割および取り組み

山形県企業局では、平成24年3月に策定された「山形県エネルギー戦略」に基づき、「卒原発社会」実現のため、再生可能エネルギーの発電量増大に向けた取り組みを積極的に推進しています。

そこで、雪国でのメガソーラー普及を支援するため、平成25年度に1,000kWの太陽光発電所を建設し、同年12月25日に運転を開始しました。その後は、様々な実証試験を通じて、有益な情報を発信してきました。

ここでは、令和元年度の実績を基に実証試験(パネルの種類、取付角度、架台高さ)について考察を行いました。

2 設備仕様

(1) パネルの種類(定格(カタログ値))と設置枚数

The state of the s	/ - IX II IX IX			
パネル種別	A社	B社	C社	
八个が僅別	[単結晶]	[多結晶]	[多結晶]	
パネルの設置枚数 [枚] **	1176 ^{×2}	1,260	1,260	
「 1 枚当たりの発電量 [W/枚]	255	240	240	
「仪当たりの先电車「W/仪」	【100%】	【94.1%】	【94.1%】	
発電電力量 [kW]	299.9	302.4	302.4	
(=定格×枚数)	【100%】	【101%】	【101%】	

(【】内の数値は、A社を100%とした場合の比較)

※PCS変換効率の低下を軽減させるため、入力電力量を均一にする目的で枚数を変えている。 各パネルの設置位置等については、別図(平面図)を参照

(2) 取付角度

角 度 30度(4,504枚)	40度 (368枚)
-----------------	------------

(3) 架台高さ

高さ	1 8m(208其)	2 Om (7基)
同口	1. 0111(290至)	∠. ∪ ((至 /

3 実証試験の検証

(1) パネルの種類

パネルの種類別 発電電力量実績

(表-1)

(平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日)

122 17			(17%01-17)		
		围	-	海外		
		①A社(南側)	②B社	③C社		
		単結晶	多結晶	多結晶 240W×1,260 302.4kW		
		255W×1,176	$240W \times 1,260$			
		299.9kW	302.4kW			
4月	発電電力量	35,960 kWh	37,931 kWh	36,726 kWh		
47	比較	100.0%	105.5%	102.1%		
5月	発電電力量	45,829 kWh	48,989 kWh	47,954 kWh		
У Д	比較	100.0%	106.9%	104.6%		
6月	発電電力量	32,521 kWh	34,824 kWh	33,965 kWh		
0.73	比較	100.0%	107.1%	104.4%		
7月	発電電力量	35,820 kWh	38,433 kWh	37,548 kWh		
/ /	比較	100.0%	107.3%	104.8%		
8月	発電電力量	35,834 kWh	38,698 kWh	37,590 kWh		
٥Д	比較	100.0%	108.0%	104.9%		
9月	発電電力量	33,056 kWh	35,387 kWh	34,438 kWh		
э л	比較	100.0%	107.1%	104.2%		
10月	発電電力量	25,330 kWh	27,074 kWh	25,939 kWh		
10月	比較	100.0%	106.9%	102.4%		
11月	発電電力量	19,908 kWh	21,094 kWh	19,794 kWh		
1175	比較	100.0%	106.0%	99.4%		
12月	発電電力量	15,776 kWh	16,504 kWh	15,254 kWh		
12月	比較	100.0%	104.6%	96.7%		
1月	発電電力量	13,261 kWh	13,777 kWh	12,772 kWh		
' <i>T</i>	比較	100.0%	103.9%	96.3%		
2月	発電電力量	17,292 kWh	18,188 kWh	16,839 kWh		
2 Л	比較	100.0%	105.2%	97.4%		
3月	発電電力量	31,622 kWh	33,607 kWh	32,783 kWh		
ν,	比較	100.0%	106.3%	103.7%		
計	発電電力量	342,209 kWh	364,506 kWh	351,602 kWh		
ĀΙ	比較	100.0%	106.5%	102.7%		
1 	の発電具/中雄	A社(単結晶)	B社(多結晶)	C社(多結晶)		
1枚当たりの発電量(実績)		291.0 [kWh]	289.3 [kWh]	279.0 [kWh]		
	[kWh/枚]	[100%]	[99.4%]	[95.9%]		

(注)「比較」: ①A社(南側)を100%とした場合の比率を示す。

①~③のパワーコンデショナー (PCS) 出力は 250kW

1 枚当たりの発電量の定格値(カタログ上の仕様)は、A 社を 100%とした場合、B, C 社とも 94.1%

◆パネルの種類別発電電力量の検証(表-1参照)

年間の発電電力量としては、B社の多結晶パネルが最も多く、1枚当たりの発電量を見てもカタログ値 (注 94.1%) と比較すると+5.3ポイント上回っている。

一般的に、単結晶シリコンパネルの方が多結晶シリコンパネルより発電効率は高いとされているが、現在のところパネル種別による発電電力量に大きな差は見られていない。

なお、表-1のC社パネルにおいて、平成29・30年度は12月~1月にかけて発電量の極端な低下(54%~79%)が見られたが、令和元年度は数%の低下に留まった。冬季にかけて日照角度が小さくなり、山に近い当該パネルは山陰の影響を受けやすくはなるものの、暖冬小雪であったことから、冬季でも安定して発電できたことが要因と思われる。

今後もパネル設置場所における周辺地形の影響については、経年実績データを蓄積し比較 分析する。

(2) 取付角度

1) 取付角度別 発電電力量実績

(表-2)

(平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日)

		県内A社		国産	B社	海外C社		
		255W >		240W×		240W×105枚		
	単位kWh	各 24	.,		5.2kW		5.2kW	
		30度	40度	30度	40度	30度	40度	
4 🛭	発電電力量	3,374	3,267	3,471	3,389	3,376	3,433	
4月	比較	100.0%	96.8%	100.0%	97.6%	100.0%	101.7%	
5月	発電電力量	3,810	3,387	3,988	3,772	3,596	3,793	
υ Э	比較	100.0%	88.9%	100.0%	94.6%	100.0%	105.5%	
6月	発電電力量	3,090	2,637	3,263	3,023	2,821	3,019	
0 <i>Э</i>	比較	100.0%	85.3%	100.0%	92.6%	100.0%	107.0%	
7月	発電電力量	3,413	3,009	3,612	3,370	3,166	3,375	
/ / 3	比較	100.0%	88.2%	100.0%	93.3%	100.0%	106.6%	
8月	発電電力量	3,401	3,196	3,626	3,442	3,519	3,426	
٥Д	比較	100.0%	94.0%	100.0%	94.9%	100.0%	97.4%	
9月	発電電力量	3,127	3,047	3,293	3,233	3,200	3,235	
эД	比較	100.0%	97.4%	100.0%	98.2%	100.0%	101.1%	
10月	発電電力量	2,402	2,402	2,525	2,537	2,428	2,538	
1073	比較	100.0%	100.0%	100.0%	100.5%	100.0%	104.5%	
11月	発電電力量	1,896	1,952	1,978	2,052	1,762	1,985	
1173	比較	100.0%	103.0%	100.0%	103.7%	100.0%	112.7%	
12月	発電電力量	1,610	1,723	1,655	1,794	1,433	1,734	
1273	比較	100.0%	107.0%	100.0%	108.4%	100.0%	121.0%	
1月	発電電力量	1,277	1,334	1,326	1,381	1,134	1,345	
'/	比較	100.0%	104.5%	100.0%	104.1%	100.0%	118.6%	
2月	発電電力量	1,665	1,835	1,736	1,912	1,505	1,870	
2 月	比較	100.0%	110.2%	100.0%	110.1%	100.0%	124.3%	
3月	発電電力量	2,987	2,922	3,092	3,069	3,009	3,097	
ν,	比較	100.0%	97.8%	100.0%	99.3%	100.0%	102.9%	
小計	発電電力量	32,052	30,711	33,565	32,974	30,949	32,850	
(1,4)	比較	100.0%	95.8%	100.0%	98.2%	100.0%	106.1%	
角度別合計	発電電力量	30度	96,5	666	40度	96,535		
円及別口司	比較	ろし反	30度 100.		40度	100.0%		

(注)「比較」:各社毎の30度パネル発電電力量を100%とした場合の40度の発電電力量の比率を示す。

◆取付角度別 発電電力量の検証(表-2参照)

初めに、C社30度パネルの発電電力量に関して、5月~7月にかけて計測装置の一部に不具合が発生し、正しい計測結果が得られなかった。そのため、この間の当該データについては検証の対象外とする。(表内 赤字部分)

全体的な傾向として、4月~9月までは30度パネルの方が発電量が多く、10月~2月までは40度パネルの方が発電量が多い結果となっている。4月~9月にかけては太陽の南中高度が高く、30度パネルの方がより多くの日照を得られるため、30度設置が有利であり、10月~2月にかけてはパネルの雪が落ちやすい40度設置が有利であるためと考えられる。

2) パネルの雪の落ち具合*および発電所構内積雪量実績

冬期間(12月~3月)におけるパネルの雪の落ち具合*が最も悪かったのは、30度パネル・40度パネル共に2月上旬で、旬間平均値は30度パネルが66.5%,40度パネルが78.1%であった。

また、1月21日及び2月9日の計2日間は発電量がゼロとなった。降雪量はそう多くなかったものの、気温が低いためにパネル表面の雪も落ちにくく、そのような状況下では発電は困難と見受けられる。(参考:過年度比較グラフおよびデータ(5)参照)尚、最大積雪量は2月10日に観測された22 c mであった。

※ パネルの露出している面積は、ITVカメラ画像 (定点観測) により確認した。 パネル表面に積もった雪が自然に滑り落ち、パネルが見えている面積の割合で表している。 雪が全て落ち、パネル全面が見えている状態を100%とした。

(3) 架台高さ

県営太陽光発電所では、構内最大積雪量(1.7mを想定)を考慮し、通常より高い1.8m(一部は2.0m)の架台を設置している。

今季の降雪及び積雪においては、記録的な小雪のため、例年見られるパネルからの落雪による雪庇も無く、構内除雪の必要も生じなかった。

そのため、架台高さの違いによる維持管理面の有用性については、検証できなかった。

4 令和元年度全体の傾向

今年度は暖冬であり、冬期間でも雪の影響をあまり受けずに済んだことから、2月を除き全て計画値を上回る発電実績となった。(最大は12月の147%)

唯一計画値に達しなかった2月に関しては、例年と比較して日射量が少なかったことが落ち込みの要因と思われるが、それでも発電実績は計画比94%と高い数値であり、年間を通して良好な発電ができたと言える。

パネルの種類別における発電電力量に大きな差はないが、取付角度別で見ると40度パネルの方が落雪し易く、冬期間における取付角度としては有利である。12月~1月の期間においては、雪の落ちやすい40度パネルの方が30度パネルに比べて発電量が多くなり、4月~9月は30度パネルの方が発電量が多くなる傾向が見られた。

発電所構内における最大積雪量は2月に観測された22cmであり、パネルからの落雪による雪庇除去の実績はなかった。

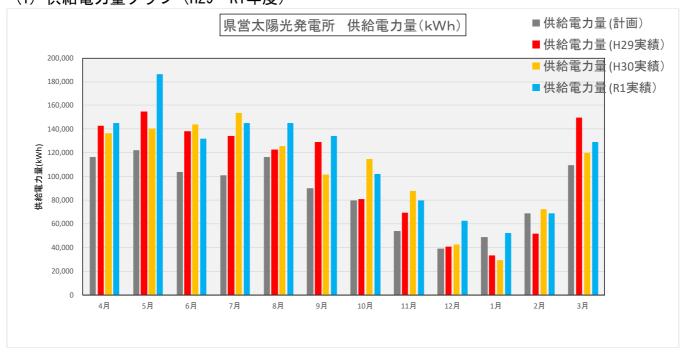
維持管理においては、停電を伴わない巡視・計測点検(2回/月)を実施し、累計時間は、41.25時間(点検1回あたり約1.7時間)であった。また、停電が必要な電気工作物点検については、昼・夜の2回に分け、2日間で実施した。(昼は変電設備、夜はパネル)

事故については、波及事故*による停電等は無かったが、地震や台風といった自然災害の発生により、緊急点検を実施した。点検の結果、台風における被害としてパネル1枚の破損、及びフレーム間を繋ぐアース線3箇所に断線が見られた。強風による飛来物の落下や、架台のしなりによる破断が原因と思われる。

※ 波及事故とは:送配電事業者側の設備に発生した事故・停電の影響で、そこに接続されている太陽光発電所も 停電となる事故。

《 参考:過年度比較グラフおよびデータ 》

(1) 供給電力量グラフ (H29~R1年度)



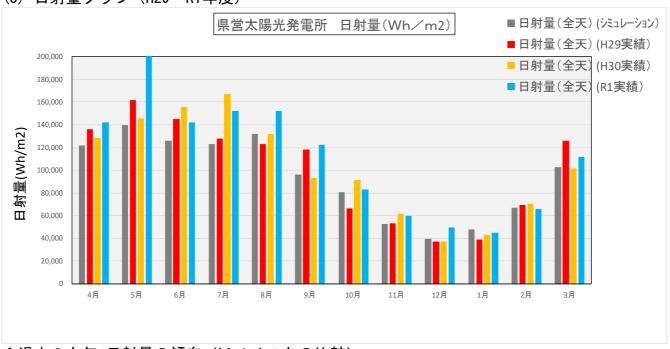
(2) 年間供給電力量グラフ (H29~R1年度)



◆過去3カ年 年間供給電力量の傾向

令和元年度: 1,383,000 [kWh] 平成30年度: 1,268,000 [kWh] 平成29年度:1,246,000 [kWh] 計 画 值:1,050,420 [kWh]

(3) 日射量グラフ (H29~R1年度)



◆過去3カ年 日射量の傾向(シミュレーションとの比較)

令和元年度: 118 [%] 平成30年度: 109 [%] 平成29年度: 107 [%]

(4) 発電電力量、供給電力量、設備利用率、日照時間、日射量等の比較一覧表 (R1年度)

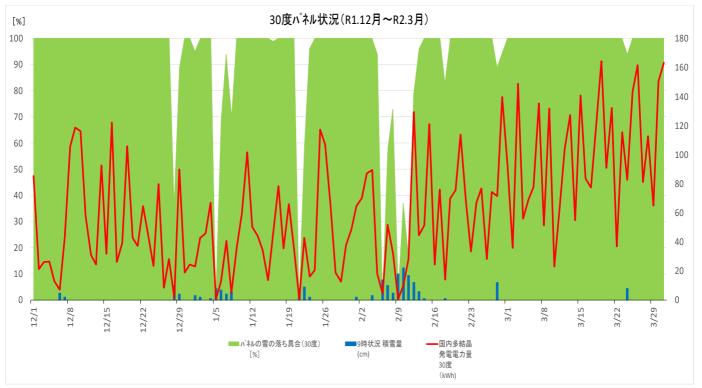
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
発電電力量	R1実績(a)	146,344	188,757	134,004	147,753	148,125	135,890	103,374	80,105	62,922	52,839	69,099	129,574	1,398,786
	計画(x)	124,016	130,164	111,125	107,891	123,976	96,005	84,877	57,872	42,772	52,548	73,316	116,416	1,120,976
电刀里 (kWh)	計画差(a-x)	22,328	58,593	22,879	39,862	24,149	39,885	18,497	22,233	20,150	291	-4,217	13,158	277,810
	計画比(a/x)	118%	145%	121%	137%	119%	142%	122%	138%	147%	101%	94%	111%	(124.8%)
	R1実績(a)	145,154	186,588	132,017	145,243	145,217	134,061	102,341	79,552	62,532	52,478	68,671	128,785	1,382,639
供給 電力量	計画(x)	116,487	122,351	104,103	101,046	116,450	90,036	79,529	54,018	39,340	48,723	68,837	109,500	1,050,420
电刀里 (kWh)	計画差(a-x)	28,667	64,237	27,914	44,197	28,767	44,025	22,812	25,534	23,192	3,755	-166	19,285	332,219
	計画比(a/x)	125%	153%	127%	144%	125%	149%	129%	147%	159%	108%	100%	118%	(131.6%)
設備	R1実績(a)	20.2%	25.1%	18.3%	19.5%	19.5%	18.6%	13.8%	11.0%	8.4%	7.1%	9.9%	17.3%	15.7%
利用率	計画(x)	16.2%	16.4%	14.5%	13.6%	15.7%	12.5%	10.7%	7.5%	5.3%	6.5%	10.2%	14.7%	12.0%
(%)	計画差(a-x)	4.0%	8.7%	3.8%	5.9%	3.8%	6.1%	3.1%	3.5%	3.1%	0.6%	-0.3%	2.6%	3.7%
供給÷発電	H30効率(%)	99.2%	98.9%	98.5%	98.3%	98.0%	98.7%	99.0%	99.3%	99.4%	99.3%	99.4%	99.4%	98.8%
	R1実績(a)	189.1	285.6	162,0	157.1	207.6	162.1	115.8	108.0	76.9	58.7	94.6	150.3	1,768
日照時間(時間)	平年(d)	179.6	213.4	183.3	167.6	185,8	145.9	130.5	86.6	60.8	59.4	90.6	141.9	1,645
	平年比(a/d)	105.3%	133.8%	88.4%	93.7%	111.7%	111.1%	88.8%	124.7%	126.5%	98.9%	104.4%	105.9%	(107.5%)
2018	R1実績(a)	142,391	202,531	142,192	152,036	152,025	122,591	82,826	59,561	49,769	44,772	66,031	111,454	1,328,178
日射量 (Wh/m ²)	計画値(d)	121,961	139,648	126,183	122,928	132,057	96,137	80,575	52,516	39,487	47,907	67,184	103,032	1,129,616
	計画比(a/d)	116.8%	145.0%	112.7%	123.7%	115.1%	127.5%	102.8%	113.4%	126.0%	93.5%	98.3%	108.2%	(117.6%)
日射量当たり の発電電力量 (Wh/(Wh/m²)	R1実績(a)	1027.8	932.0	942.4	971.8	974.4	1108.5	1248.1	1344.9	1264.3	1180.2	1046.5	1162.6	13,203

(5) 積雪量とパネルの雪の落ち具合*及び発電電力量(R1年度)

※ パネルの露出している面積は、ITVカメラ画像 (定点観測) により確認した。 パネル表面に積もった雪が自然に滑り落ち、パネルが見えている面積の割合で表している。 雪が全て落ち、パネル全面が見えている状態を100%とした。

(30度パネル)

(令和元年12月1日 ~ 令和2年3月31日)



(40度パネル)

(令和元年12月1日 ~ 令和2年3月31日)

